

物部川地域アクションプランの進捗状況等について（第 3 四半期）

H 2 5 . 2 . 1 4

物部川地域本部

1 地域アクションプランの実施状況（総括）

(1) 総評

全 23 項目について、実行支援チームを編成し、支援及び進捗管理を行なっている。必要な情報共有や積極的な事業進捗に向けた協議など、支援チーム員と関係者が連携して取り組んでおり、全項目において概ね計画どおり進捗している。

重点的な取組のうち、「地産地消・食育の推進」については、JA十市が産業振興推進総合支援事業費補助金を活用して直販所の移転拡充に取り組んでおり、平成 25 年 3 月オープンに向け、常勤職員の雇用、店舗の改装工事、新規出荷会員の募集及び外部仕入先の確保等、開店の準備を行なっている。

「豊富な地域資源を活用した 1.5 次産業化の推進」については、奥ものべ・じじばばあんぜん会がステップアップ補助金を活用してユズ皮を使った新商品開発並びに販路開拓及び販売促進に取り組み、新商品 2 品目（佃煮、ピール）を完成させた。

「体験型観光商品の充実及び広域観光の取組の推進」については、物部川地域観光振興協議会が広域観光のプロモーションツール（物部川地域広域観光ガイドブック）を作成し、関西・中四国地区のエージェントへのセールス活動を実施したほか、エージェントを対象としたモニターツアーの開催を予定している。

(2) 具体的な動き

① 地域の重点的な動き

重点的な取組	取組状況（結果、成果を含む）・課題と今後の対応
<p>園芸主幹品目の再構築及び強化</p> <p>■No. 1 南国市の園芸主幹品目シシトウの再構築（南国市）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ JA 南国市 ・ JA 長岡 ・ JA 十市 	<p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域 A P 支援チーム会（営農改善会）等を開催し、本年度の進捗状況の把握及び今後の取り組みの確認を行った（省エネ技術の導入によるコスト削減、腐敗果防止の推進、天敵利用の推進等）。 ・ 土着天敵使用について、5 戸の農家で試験導入を行い、結果がよかったことから、2 5 園芸年度には導入農家が 1 5 戸に増加した。 ・ J A 長岡管内で、新規就農者 1 名、新規研修生 1 名が誕生した。 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>省エネ技術導入に向けた取り組み ⇒補助事業の活用によるバイオマスボイラー等の導入促</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No.2 エメラルドメロンの販売力向上対策 (香南市)</p> <p>・JA 土佐香美</p>	<p>進及び安定的なペレットの供給体制の構築並びに焼却灰の処理への対応が必要である。</p> <p>土着天敵の導入 ⇒普及と併せて引き続き防除効果と作物への影響の検証を行う。</p> <p>新規就農者対策 ⇒栽培技術レベルの向上を図る。</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パートナー量販店と市場担当者を招へいし、情報交換を行った。 ・主要な取引市場担当者(7社)を招き、エメラルドメロン20周年記念大会を実施した。 ・関東、徳島、大阪、名古屋で販促活動を行った。 ・MB代替薬剤の試験ほを設置(1カ所)し、薬害発生の可能性は低く実用性が認められた。 ・天敵実証ほを設置(1カ所、1作目)し、この作での問題点を明らかにした。 ・大玉果軽減のため高温期草勢の目慣らし、温度・灌水管理の徹底を現地検討会で指導した。その結果、大玉果実の出荷量は昨年と比べて減少した。 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>消費者の認知度向上 ⇒カット販売は要請があれば対応していくなど、消費者が購入しやすい商品形態について今後とも役員会で検討していく。</p> <p>MB剤全廃(2013年)後の代替技術の確立 ⇒代替薬剤としてヨーカヒュームは原材料確保が困難となりメロンにおいてはメーカーが販売を休止した。このため、従来の土壌消毒薬剤の組み合わせなどによる土壌病害虫防除の指導を行っていく。</p> <p>天敵の活用 ⇒2作目では天敵の放飼時期を早めるなど改善し実証する。</p>
<p>■No.3 ニラの産地力強化「日本一のニラ産地の維持・拡大へ向けた仕組みづくり」(香南市・香美市)</p>	<p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物部町で夏ニラの新規栽培者(2戸、15a分)による出荷が始まった。育苗は、大規模農家への委託から2戸の共同育苗となった。

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>・JA 土佐香美</p> <p>ユズの総合的な産地強化</p> <p>■No. 11 生産から販売までのユズの総合的な産地強化対策（香美市）</p> <p>・香美市</p> <p>・JA 土佐香美</p>	<p>・防虫ネット+タイバックシート被覆によるアザミウマの防除効果が実証された。</p> <p>・葉面散布剤による葉先枯れ軽減対策や頭上かん水による高温対策の実証を行った。</p> <p>・鮮度保持対策の目慣らし会を実施した（11回）。</p> <p>・異物混入対策の品目別チェックリストによる点検（点検農家戸110戸）を実施した。</p> <p>・栽培履歴の記帳方法を改善した。</p> <p>・大阪市場卸売会社、岡山丸果、名古屋青果との出荷、販売について情報交換を行った。</p> <p>・雇用労力、規模の意向実態調査を実施した。</p> <p>[課題と今後の対応]</p> <p>周年安定生産、出荷量の拡大</p> <p>⇒作業受委託について、担当者会等で検討していく。</p> <p>引き続き、葉先枯れ対策の実証ほを設置し、効果を確認する。</p> <p>[取組状況]</p> <p>・ユズ産地協議会を開催し（4回、参加者47名）、小袋（個包装）を利用した新たな販路の開拓についての検討や、販売戦略を立てるための樹齢や改植等に関する生産者アンケートを実施した。</p> <p>・「公文2号」を「柚月」と命名し、在来ユズと別途販売することとした。</p> <p>・小袋(個包装)を充実させ、販路拡大に取り組むこととした。</p> <p>・機械選果を試験実施した。</p> <p>・こうち農業確立総合支援事業を活用して、ユズのカラーリング施設を整備した。</p> <p>[課題と今後の対応]</p> <p>「ゆずもり」の再構築</p> <p>⇒作業料金や組織構成等を見直す。</p> <p>新たな販路の拡大</p> <p>⇒生産量の変動にも対応可能な販売戦略を検討する。</p> <p>高齢化への対応</p> <p>⇒園地の集積等により放棄園を出さない方策を検討する。</p> <p>⇒収穫作業等の労力を確保するため、外部労力(大学生等)による応援について検討する。</p> <p>⇒出荷労力を軽減するため、全量機械選果について検討す</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>地産地消・食育の推進</p> <p>■No.4 地産地消・食育の推進(南国市)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ J A南国市出資農業生産法人 ・ J A南国市、J A長岡、J A十市 ・ 南国市地産地消推進協議会 ・ 農家レストランまほろば畑 ・ 南国市 <p>■No.5 直販所「あけぼの市」の機能強化による農家の所得向上及び交流人口の拡大(南国市)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ JA長岡 <p>■No.6 地域農産物を活用した直販所「ひかり市」の施設拡充(南国市)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ J A十市 	<p>る。</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校給食用食材配送システムについては、「株式会社南国スタイル」(J A南国市出資農業生産法人。H24.4.2発足)が道の駅南国から事業継承を受けたが、その運営について、市、市教委、南国スタイルとの間で調整を行った。 ・ 農家レストランまほろば畑については、高い集客力を維持している(4/3~12/18の来店者数 平均174.9人)。 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>学校給食用食材配送システムに関する調整</p> <p>⇒農林水産課が情報集約し、南国スタイル、学校教育課へ周知及び円滑な運営に向けて調整を行う。</p> <p>農家レストランの集客維持に向けた努力の継続</p> <p>⇒地域食材を活用したメニュー開発に取り組むため、農業創造セミナー修了グループを対象とした「食のワークショップ」に参加する。</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成25年度以降に産振補助金を活用して事業を実施する予定であり、県、市、J A長岡による打ち合わせ会を開催して関係者間の意思統一を図った。 ・ 運営グループが農業振興部の農業創造セミナーを受講し、店舗運営の方向性等について検討を行なっている。 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>事業計画の十分な精査</p> <p>⇒打ち合わせ会やセミナーでの成果に基づき、事業計画を精査していく。</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 10月1日付で産振補助金の交付決定を受け、店舗の改装工事等に着手している。 <p>常勤職員(店長)1名を雇用し、平成25年3月オープンに向け、開店の準備を行なっている。</p> <p>開店に向けて、県のアドバイザー事業(農業振興部の農林水産物直販所支援事業)を活用し、店舗経営等について専門家の助言を受け(1回目12/11)、採算の取れる経営ができるよう所要の準備を行っている。</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>豊富な地域資源を活用した1.5次産業化の推進</p> <p>■No.7 地域の特産品づくり～農産物加工への取組～(南国市)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なんこく空の駅推進協議会、西島園芸団地など既存企業、組織、グループ ・新しい組織、グループ ・JA南国市出資農業生産法人 ・南国市商工会 ・南国市観光協会 <p>■No.8 「ごめんケンカシャモ」のブランド化の取組(南国市)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごめんシャモ研究会 ・南国市商工会 ・南国市 <p>■No.12 香美市ブランドの確立・特産品づくり(香美市)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・香美市観光協会 ・食品加工グループ 	<p>[課題と今後の対応]</p> <p>開店に向けた準備</p> <p>⇒新規出荷会員の確保を早急に進めるとともに、地元農産物以外の仕入れ先確保など店舗運営についての準備等を行っていく。</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南国市において、地域特産品商品開発事業を行うための補助金交付要綱が制定された。特産品開発5件が採択され、うち新規開発にかかるものが3件あった。 ・特産品づくりのプレーヤーとして期待される事業者等が2組織・団体となった。 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>特産品づくりのプレーヤーの育成</p> <p>⇒支援チームを結成し、特産品づくりのプレーヤーを育てる体制を構築した。</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シャモ肉取り扱い飲食店を新規開拓して、シャモ鍋社中(南国市内の取扱店)2店舗、南国市外7店舗、卸業者1社が新たに加わり、取引先は合計30となった。 ・直営鶏舎2棟を整備した。 ・シャモ料理の知名度が向上し、取引先も増となったため、4月から11月末の間に前年同期比で171.5%となる1640kgのシャモ肉を売り上げた。 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>シャモの安定的な生育体制の整備</p> <p>⇒関係機関と協議調整中</p> <p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゆず加工品の開発等を行なっている「奥ものべ・じじばばあんぜん会」が産振補助金(ステップアップ補助金)を活用して、ユズ皮を使った新商品開発並びに販路開拓及び販売促進に取り組み、新商品2品目(佃煮、ピール)が完成した。 ・一般社団法人香美市観光協会が中心となり、香美市内外で開催されるイベントに参加し、シカ商品やユズ加工品を販売し、特産品のPRを行った。

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 15 シイラ等の加工商材活用 (香南市)</p> <p>・高知県漁協手結支所</p> <p>地域に育つ県産材の有効活用</p> <p>■No. 13 民有林における素材の増産(物部川地域全域)</p> <p>・各森林組合</p> <p>・林業事業体等</p>	<p>[課題と今後の対応]</p> <p>新商品の販路開拓、販売促進</p> <p>⇒奥ものべ・じじばばあんぜん会が開発した新商品については、既存商品(塩の道マーマレード「しおゆず」)と併せて量販店で特設販売を行うとともに県広報テレビ番組にも取り上げる等、販売促進を行い、販路開拓につなげていく。</p> <p>[取組状況]</p> <p>・既存取引先と定期的に情報交換を行うなど(2回/週)、販売先を確保しており、販売額は着実に増加している。</p> <p>[課題と今後の対応]</p> <p>加工場の周年稼働に向けた体制整備</p> <p>⇒既存取引先との連携を強化し新規販売先の確保を行っていく。加工職員の能力向上等により、生産性の向上を図る。</p> <p>衛生管理の維持</p> <p>⇒自主マニュアルに基づき点検等を行っていく。</p> <p>[取組状況]</p> <p>・香南市「舞川・撫川地区森の工場」が承認された(246ha)。</p> <p>・香美市猪野々地区(平成21年度森の工場設定済)で森林経営計画制度及び森林管理・環境保全直接支払制度について地元説明会を開催(地元代表者11名参加)し、今年度の事業実施に向けて実施計画の策定作業を行っている。</p> <p>・南国市黒滝で森の工場及び森林経営計画について地元説明会を開催した(森林所有者17名参加)。</p> <p>・香美市香北地区で森の工場及び森林経営計画等補助事業について地元説明会を開催した(森林所有者28名参加)。</p> <p>[課題と今後の対応]</p> <p>森林経営計画における事業量と認定事業体の作業実行能力の整合</p> <p>⇒既存の森の工場から、試行的に1団地を抽出して計画を作成し、労働力の確保や機械装備など課題を洗い出したうえで、順次他の団地の計画に着手していく。</p> <p>昨今の木材価格低迷による、各事業体の素材増産意欲の低下</p> <p>⇒素材生産に関する今後の対応策について検討していく。</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 14 木質バイオマスの活用に向けての取組(物部川地域全域)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南国市 ・香南市 ・香美市 ・JA 南国市 ・JA 長岡 ・JA 十市 ・JA 土佐香美 	<p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペレット利用量、チップ利用量、CO2削減量の検証を行った。 ・木質ペレットの需給状況や燃焼灰の処理に関する説明会を行った。 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>重油価格や天候に伴うペレット等利用量の変動</p> <p>⇒ペレット等利用量やCO2削減量について継続して検証していく。併せて、県産ペレットの生産体制及び焼却灰の処理方針について留意していく。</p>
<p>歴史と伝統ある地場産業の振興</p> <p>■No. 19 地場産業(土佐打刃物、フラフ)の振興(香美市)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知県土佐刃物連合協同組合 ・香美市商工会 ・フラフ製造業者 ・香美市観光協会 	<p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光協会通販サイトでの土佐打刃物製品の商品構成の充実を図るべく、土佐打刃物業者に声掛けを開始した。 ・中小企業団体中央会の「連携組織活性化推進事業(活性化支援事業)」を導入し、後継者育成計画案の検討を開始した。 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>土佐打刃物後継者育成</p> <p>⇒中小企業団体中央会事業の結果を受けて、土佐打刃物後継者育成対応策検討会等で引き続き協議を行なっていく。</p>
<p>体験型観光商品の充実及び広域観光の取組の推進</p> <p>■No. 20 観光事業から観光産業へ～観光産業の振興～(南国市)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南国市観光協会 ・市内各観光に関わる企業・団体・グループ 	<p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度から南国市観光協会として行政から独立し、専任スタッフが配置され、企画力、機動力の向上が図られている。岡豊山さくらまつり(土佐の食1グランプリ)や長宗我部フェスの開催等、概ね計画どおり進捗している。 ・南国市観光協会が観光振興部の「観光拠点等整備事業」を活用し、西島園芸団地に自転車10台を整備して貸し出す「まほろばレンタサイクル」をスタートさせた(10月20日～)。 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>南国市観光協会の法人化</p> <p>⇒「会員増対策」、「明確な事業計画」等の課題に対する具体策の検討を進め、平成25年度の法人化に向けて取り組んでいく。</p>

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
<p>■No. 21 体験観光等の旅行商品化と販売の推進・地域の観光情報の発信(香南市)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・香南市観光協会 ・地域の体験メニュー等提供団体 	<p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐塩の道30kmウォークをはじめ4回塩の道ウォークを企画・募集した。 (4/7・30km60名参加、10/7・11.6km10名参加、11/11・10km(悪天候で中止)、12/2・8km15名参加) ・土佐塩の道でのトレイルランの試走を企画し、7名の参加があった。試走が好評であったため、第1回土佐塩の道トレイルランニングレースを企画・募集した。(12/2・22km 164名申込み、152名出走) ・その他夜須町の羽尾長谷寺での座禅体験を主催(11/18・20名参加)。 以上のように、募集人員や参加者数は少ないものの着実に旅行企画を実施している。 ・「香南市地旅ガイド」や観光パンフレット等を配布し、体験観光や絵金生誕200周年記念行事など香南市の観光PRを行った。 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>旅行企画の多様化 ⇒土佐塩の道以外の企画が少ないことから、地域素材を使った旅行企画の多様化に取り組んで行く。</p>
<p>■No. 22 「森の駅」を中心とした体験型観光の推進(香美市)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・香美市 ・香美市観光協会 ・地域内の観光施設及び体験型観光メニュー等の提供団体 	<p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般社団法人香美市観光協会が中心となり、「香美市いんふおめーしょん」を活用した観光情報の発信と募集ツアーの定期的開催により集客数を増やした。 ・指定管理者となったべふ峡温泉で「森の駅フェスティバル」や登山・アウトドアクッキングなどの体験プログラムの商品化を行った。 ・観光振興部の「観光拠点等整備事業」を活用し、べふ峡温泉内の林間広場の整備を行っている。 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>観光素材の磨きあげと人材育成 ⇒地域の観光素材の磨きあげとべふ峡温泉従業員や観光協会職員等の人材育成を行っていく。</p>
<p>■No. 23 広域観光の取組の推進(物部川地域全域)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物部川地域観光振興協議会 	<p>[取組状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物部川地域観光振興協議会を開催(5回)し、本年度事業及び予算を決定、高知県観光拠点等整備事業費補助金を活用し、広域観光のプロモーションツール(物部川地域広域観光

重点的な取組	取組状況(結果、成果を含む)・課題と今後の対応
(南国市、香南市、香美市、南国市観光協会、香南市観光協会、香美市観光協会)	<p>ガイドブック)を作成するとともに、エージェントへのセールス活動を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とさ旅セミナーin 物部川及び同セールス実行委員会に参加し、物部川地域の旅行プランの企画及び磨き上げを行っている。 ・エリアキャンペーン実行委員会に出席し、エリアキャンペーンの企画を行った。 ・高知県中央広域定住自立圏構想のもと取り組みの一本化を図るべく、4市(高知市及び物部川地域を構成する3市)とともに検討を行っている。 <p>[課題と今後の対応]</p> <p>エージェントへのプロモーション活動 ⇒エージェントを対象としたモニターツアーを開催する。</p> <p>定住自立圏への移行 ⇒定住自立圏構想のもと4市で取り組む。</p>

②上記以外で特記すべき取組

特になし

2 平成24年度産業振興推進総合支援事業費補助金の導入状況(交付決定又は採択事業)

単位：千円

取組	事業概要	総事業費(補助金額)
■No.6 地域農産物を活用した直販所「ひかり市」の施設拡充(南国市)	・農産物の価格低迷と資材等の高騰により大幅に減少している農家所得の向上のため、直販所を移転改装するとともに機能拡充を図り、地元農産物を活用した商品の販売と顧客獲得に取り組む。	25,771(14,178)
■No.12 香美市ブランドの確立・特産品づくり(香美市)	・ゆず皮を利用した新商品を開発し、既存商品のゆずマーマレードと合わせて販売促進活動を行う。	900(450)

3 県民参画に向けた取組

- ・J A土佐香美総会で第2期産業振興計画について説明(4/23)
- ・南国市・香南市の広報紙6月号に土佐の産業おこし参加プラン募集記事掲載
- ・南国(5/18)・香南(5/29)・香美(5/23)の各市商工会総会で土佐の産業おこし参加プラン、産業振興計画シンポジウム、土佐MBAのPR
- ・三水会※において、産業振興計画について説明(10/17)

※香美市の官公署、公共的団体、会社等の代表者等で構成される、親睦及び産業文化の向上発展への寄与を目的とする団体

4 相談案件：2件

NO.	相談日	事業種別	相談内容
1	6/6	食品加工	南国市内で菓子製造の事業規模を拡大したい。
2	10/23	福祉	福祉タクシー導入にかかる助成制度を知りたい。